

草食系男子

性格が穏やかで協調性に富み、恋愛や異性関係に対して執着の薄い男性のことを、数年前前から草食動物に例えて「草食系男子」と呼ぶようになりました。

草食系男子誕生の背景には、バブル崩壊後の長期不況期に背伸びすることなく少年時代を過ごしたことで、積極性がなく無用な競争を避けようとする性格の男性が増えたことや、全国的に男女共同参画が推進される中で、男女平等教育を受けてきたことなどが挙げられます。そのため、異性の友人や家族（特に母親）との関係が良好であるという特徴もあります。

古くから男性といえは狩りを行い、生計を立て、家庭を守っていくという立場でした。しかし、近年では生活様式も変わり、今までのスタイルが成り立たなくなってきたことが「草食系男子」を生み出したとも考えられます。

また、女性が強くなったのか男性が弱くなったのか分かりま

せんが、女性が男性をリードすることも多くなりました。それを男性側がごく自然に受け入れるようになったことや、メールや携帯電話などコミュニケーションの方法が多様化したことで人間関係が淡薄になったことも、優しい・淡々とした草食系男子が増えている要因として考えられます。

「草食系男子」は今の時代だからこそ誕生し、今の時代にマッチした人種ということになるのでしょうか。

最近では草食系・肉食系だけではなく、外側はキャベツ（草食系）だけれども中身は肉（肉食系）の「ロールキャベツ系男子」やその逆の「アスパラベークン巻き系男子」といった呼び方も出てきています。

呼び方はいろいろありますが、「あの人は草食系だから」とフィルターをかけるのではなく、その人の中身を理解することで、男女共同参画社会の実現により近づけるのではないのでしょうか。

先生！「地域福祉」って何ですか？

第3回 介護者を孤立させない（終）

地域の安全安心な暮らしを実現するためには、地域住民の参加協力が必要です。住民参加を促進するためには、「人づくりと仕組みづくり」が大切です。

例えば災害時要援護者避難支援では、災害を想定して避難することが困難な方をあらかじめ抽出し、地域の誰がどのように避難を助けるか決めておくことです。また見守りネットワークでは、民生委員さんと協力して一人暮らしの高齢者などを見守り、異変に気付いたときに地域包括支援センターや社会福祉協議会（社協）などへ知らせる活動です。近隣助け合い活動では、外出が困難な方へ買い物や通院のお手伝い、話し相手などを地域でチームをつくり活動するものです。

この活動には、町内会長、民生委員、福祉委員、老人クラブ、子ども会、消防団、地域ボランティア、商店、配達員など多くの皆さんが協力し合います。さらに住民の活動を行政や専門機関、社協が支援します。地域が「大きな家族」になれると素晴らしいと思います。

地域で支える人の中に、寝たきりや認知症の高齢者を在宅で介護している家族の方がいます。中でも、高齢者が高齢者を介護する「老々介護」や家族が1人で介護する「ひとり介護」など、頼るすべの少ない人々

がいます。地域では普段気になっても他家への干渉をはばかり、どのようにお手伝いをすればよいか分からず、そっと見守っているケースが多いのではないのでしょうか。

まずは介護をしている方の負担を軽くすることです。介護をしている方が病気やストレスで倒れないように、介護保険サービスや福祉サービスなどを活用するのが、介護保険サービスは1割の自己負担もありますが、まずは地域包括支援センターに相談することを勧めましょう。そして介護をしている方の気持ちが少しでも晴れるように、趣味や話し相手にお誘いすることはできないのでしょうか。

「総子化時代」といわれます。高齢化によって、いまや7割の方に親がいる時代です。親の老後を見ること、老後を看取られることは誰もが避けて通れません。家族や制度、地域の協力を得て、どのように老後を過ごすか話し合うことが求められています。介護をしている方が安心して心を開き、家を開けるような地域づくりが求められます。

（文責）飯尾良英氏 中部学院大学短期大学部教授／第2期土岐市地域福祉計画策定委員長